

3-11 大学情報化職員研修会

本研修会は、情報技術を活用して教育研究に関する情報、管理運営に関する情報を職員がそれぞれの立場で活用し、大学本来の使命である人材育成に役立てられるよう、職員の情報活用能力の向上を図ることを目的として、昨年までの「事務システム研修会」を改組し、新たな研修会として開催した。研修会の企画・実施・運営にあたっては、研修運営委員会にて対応している。

(1) 開催要項の決定と実施準備

「大学の情報（IT）化における職員の果たすべき役割」を全体会から各分科会に至る統一テーマとして掲げ、職員一人一人が備えるべき情報活用能力について共通理解を図り、それぞれの業務で、教育支援の立場から大学の情報化と業務改善を討議することにした。分科会は、12グループをA、B日程に分割して開催し、グループ編成は、昨年度の奨学金、人事・給与、管財・施設に替えて、本年度は経理・財務、各種資格取得を取り上げることにした。また、改組の趣旨に基づき、各グループとも、これまでの業務システム研修を連想させる名称から、教育支援や業務改善を表す名称に変更することにした。

平成13年度大学情報化職員研修会開催要項

I 研修目的・テーマ

この研修会は、情報技術を活用して教育研究に関する情報、管理運営に関する情報を職員がそれぞれの立場で活用し、大学本来の使命である人材育成に役立てられるよう、職員の情報活用能力の向上を図ることを目的として、昨年までの「事務システム研修会」を改組し新たな研修会として開催するものです。研修は、業務及びテーマごとにグループを設定し、情報化のための環境作り、運用・効果、体制等に関する問題全般について、グループ内の参加者相互によるシステムの事例紹介、討議を通して理解を深めます。

研修会テーマ「大学の情報（IT）化における職員の果たすべき役割」

II 研修内容

学内の基幹業務あるいは業務を横断するテーマについて討議と事例研究を行い、問題解決の方法について理解します。また、必要に応じて専門家・経験者を招いて講演を聴き質疑応答・意見交換等を行います。

1. A日程 平成13年10月10日（水）～12日（金）

A-1 学園の戦略的情報化

A-2 学園統合情報システムの構築・運用

A-3 イン트라ネットと文書管理

A-4 学術情報システム

A-5 経理・財務情報の戦略的活用

A-6 ホームページを利用した戦略広報

2. B日程 平成10月17日(水)～19(金)

B-1 入試・入学業務の情報化

B-2 学生の個人情報管理(卒業生・校友会管理を含む)

B-3 カリキュラム・時間割管理とシラバスデータベース

B-4 履修登録と成績管理業務

B-5 各種資格取得支援

B-6 就職支援システムの構築と運用

3. 全体講演、事例発表とデモンストレーション

大学における情報環境整備が進められる中で、職員には情報化の意義を理解し、自らの業務を見直し、それぞれの立場で教育支援を遂行することが求められます。そこで、今回の研修会では、大学の情報(IT)化を進める上で職員が意識すべき事項、果たすべき役割、求められる資質等について全体会にて講演・解説します。また、必要に応じて、関連するテーマの事例紹介、最新技術に関する賛助会員企業のデモンストレーション、ハードウェア、ソフトウェアの展示・解説を行います。

基調講演：「いま何故、大学の情報化なのか」

井端 正臣 氏(社団法人私立大学情報教育協会事務局長)

Ⅲ 研修方法、研修期間

各日程とも、2泊3日の合宿研修です。

A日程：平成13年10月10日(水)～12日(金)

B日程：平成13年10月17日(水)～19日(金)

Ⅳ 参加資格

加盟大学職員： 当協会加盟大学・短期大学の職員で、大学業務の情報化に携わる方。グループのテーマに関心がある方で、積極的に意見交換できる方。

賛助会員： 本研修会の開催内容に関連する当協会賛助会員企業の方で、討議に積極的に参加の上、関連情報の提供などにより参加グループの討議促進に貢献できる方。

(2) 開催結果

参加者は、125大学、3短期大学、賛助会員6社の総勢294名であった。開催結果の詳細は、資料編【資料12】を参照されたい。全体会では、井端正

臣氏（社団法人私立大学情報教育協会事務局長）より、21世紀に求められる大学教育について、米国大学の事例を含めたITによる授業改善のイメージ、教育の高度化とオープン化を実現するための大学連携の必要性などが紹介され、職員は、教員が教育に限りなく集中できるよう、それぞれの立場で教育を支援することが求められていることが説明された。その中で、全ての教職員が大学の教育目標と現状及び将来計画を共通理解するとともに、他大学の教育情報を活用し、自己点検・自己評価、意思決定に効果的な私立大学間教育情報交流システムが紹介された。また、B日程2日目には、関連する最新技術として、松下電器産業より、テキスト、スライド、動画像などを組み合わせてマルチメディア教材を作成するオーサリングシステムが紹介された。

（3）13年度開催計画の検討

本年度の参加者が前年度に比べて115名減少したことについて検討したところ、主な原因として、グループの構成が必ずしも大学の期待に添うものではなかったことが考えられることから、次年度には、参加希望の少ないグループを統廃合することにした。また、研修会改組の趣旨がグループ編成により明確に反映されるよう検討し、次年度は、①大学の事務情報の統合化、②教育の情報化支援、③経営に関する意思決定支援、④インターネットと情報共有をテーマとしてグループ編成を見直すことにしている。